レポート作成の作業をTableau+自社開発アプリで自動化
年間7万本近くに上る膨大なレポートの提供も可能に

会社概要

株式会社サイバー・コミュニケーションズ

https://www.cci.co.jp/

業種：デジタル広告関連事業

従業員数：
960 名（2019 年 12 月現在）

資本金：4 億 9,000 万円

所在地：〒 104-0045 東京都中央区築地
1-13-1 築地松竹ビル

事業内容：
日本のインターネット広告誕生の 1996 年に設立。デジタルマーケティング全般のサービスを展開、数百の媒体社・広告会社と共に、業界を牽引。「革新的で信頼あるインタラクティブコミュニケーションサービスの提供を通じて、より豊かな情報社会の一翼を担う」という経営理念を掲げ、メディアとともに、最先端のマーケティングサービスの提供を通じて、企業のコミュニケーション活動に貢献。

導入製品

導入時期：2015 年頃

導入製品：
Tableau Server ライセンス数：1
Tableau Desktop（Creator）
ライセンス数：60

主な利用環境：インターネット広告に関する社内外向けレポートサービスの提供

導入に要した期間：約 1 年

Before 導入前の課題

広告効果などのレポート作成を、以前は広告配信プラットフォームから手作業でデータをダウンロードし、Excel でまとめていた。

After 導入後の効果

Tableau Server にデータを集約し、Viz と自社開発の Web アプリケーションを連携させることで、レポート作成を自動化することが可能になった。Tableau をベースに開発されたダッシュボードサービス「lake.bi」（https://lake-foundation.cci.co.jp/top）では、年間 7 万本近くに上るレポートを自動提供することが可能になっている。

導入の背景

日本のインターネット広告の黎明期から活動を開始し、インターネット広告業界をリードし続けてきたサイバー・コミュニケーションズ（CCI）。「The Media Growth Partner」というビジョンを掲げ、インターネットメディアの広告スペースの価値向上と、それらを活用してより精緻な広告展開を支援し続け、インターネットメディアの成長を支えてきました。

そのためには当然ながら、きめ細かいデータ活用が不可欠です。その基盤として全社的に活用されているのが Tableau です。

「当社は様々な広告配信プラットフォーマーとのお付き合いがあり、そこから膨大なデータを収集し、お客様に必要なレポートを提供しています」と語るのは、CCI テクノロジー・ディビジョンでチームマネージャーを務める浦 康高 氏。以前は各プラットフォーマーが提供する管理画面にアクセスしてデータを CSV などの形式でダウンロードし、これを Excel でレポートフォーマットに落とし込むことで、レポートを作成していたと言います。

「レポートの内容や規模にもよりますが、1 レポートを作成するのにだいたい 30 分から 1 時間はかかっていました。レポートの種類も月次レポートや速報などがあり、取引先毎に作成する必要があります。この作成作業のため、膨大な時間がかかっていたのです」。

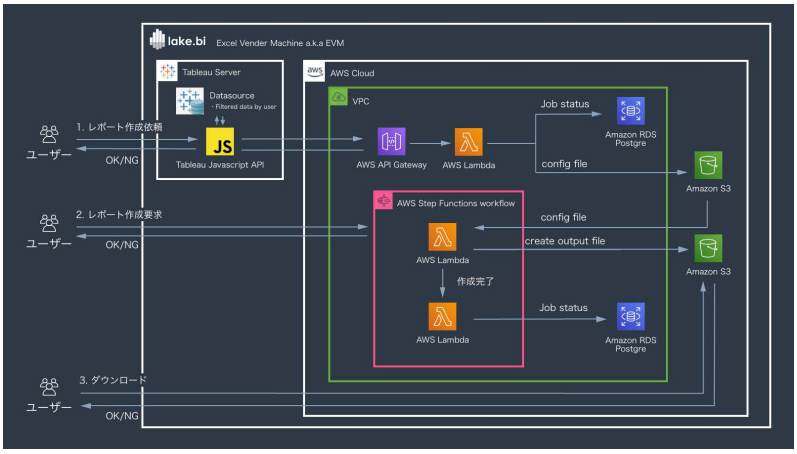
Tableau 導入・運用環境

この作業を効率化する手段として、浦氏は Tableau に着目。そのきっかけとなったのは、上司が 1 人で使っていた Tableau のライセンスを 2014 年に譲り受けたことだったと振り返ります。

当初は Excel で作成していたグラフを Tableau に移行する、といった程度の利用方法でしたが、次第にその威力の大きさに気づき、Tableau 活用を全社に広げていくべきだと考えるようになりました。そして 2015 年には全社勉強会を開催。その後徐々にユーザーが増えていき、2017 年にはほぼ全社で活用されるようになっています。

Tableau の主なデータソースは、各プラットフォーマーが提供する広告効果などに関するデータベースであり、そこから膨大なデータが Tableau Server に取り込まれています。Tableau Server 上のデータ量はすでに 50TB に達しており、現在も毎月 10GB のペースで増え続けています。

Tableau Server 上には定形のダッシュボードが登録されており、これが自社開発の Web アプリケーションと



© Copyright Tableau Software, 2020. All rights reserved. Tableau Software, the Tableau Software logo, and Visual Analysis for Databases are either registered trademarks or trademarks of Tableau Software, Incorporated. Other company or product names may be the trademarks of their respective owners.

お客様プロフィール

お名前：浦 康高 様

役職：チームマネージャー

部門名：
テクノロジー・ディビジョン

主な担当業務：
データ整備人 / プロダクトマネージャー。広告会社向けやクライアント向けのデータプラットフォーム開発並びに BI を軸とした社内のプロダクト開発のディレクションや設計を担当。

Tableauについての質問

Q1. Tableau で感動したことは？

「コミュニティ活動の活発さと情報量の多さです。BI ツールが本当の意味で役立つには、この 2 つが非常に重要です。また以前は専門家だけのものだったデータ分析を、誰にでも使えるよう敷居を大幅に下げたことも、素晴らしいことだと感じています」

Q2. Tableau 導入後の変化は？

「Tableau の利用拡大に関する活動を行ってきたことで、社内で声をかけられやすくなりました。また私自身も Tableau で仕事をしていますが、これによって仕事の幅が広がり、規模の大きな案件を任せてもらうことも増えています」

Q3. Tableau でしたいことは？

「Tableau を他の 3rdParty サービスとつないで活用することです。Tableau を外部のソリューションと連携させることで、新たな価値が生み出しやすくなります。Tableau を単体で使っている方も多いようですが、ぜひ lake.bi のような連携活用にも挑戦していただきたいと思います」

連携して動くようになっています。ユーザーはこの Web アプリケーションにアクセスして Viz を参照すると共に、その内容をレポートとしてダウンロードできるようになっています。

この Web アプリケーションにアクセスしているのは、合計で約 1,000 名に上るユーザーです。その中には社内だけではなく、顧客などの社外ユーザーも含まれています。Tableau Desktop でダッシュボード作成を行うユーザーは各部署におり、その数も合計約 60 名に達しています。その多くは Tableau に実際に触れたことで Tableau の魅力に気づき、自ら Tableau に乗り換えていったと言います。

またこれと並行して CCI は、社内外向けのキャンペーンデータ分析ダッシュボードの開発にも着手。ここでも Tableau が活用されています。このダッシュボードは 2016 年に提供が開始されており、2019 年 7 月には「lake.bi」へとリブランド。年間 7 万本近くに上るレポートがユーザーに提供されています。

Tableau 選定の理由

それではなぜ浦氏は、Tableau の全社展開を決意するに至ったのでしょうか。その理由は大きく 3 つあると説明します。

データレイクとしての活用が可能

Tableau Server には膨大なデータを蓄積でき、データ量が多くなっても高いレスポンススピードが維持できるという特徴があります。そのため必要なデータを集中的に管理するデータレイクとして利用できます。「もともと Tableau を使ってみようと考えた最大の理由は、社内のデータをここに集中させたいという思いからでした」と浦氏。Tableau はデータリポジトリとしての管理機能もあるため、データレイクに最適なのだと説明します。「いったん Tableau にデータを集めてしまえば、ここにアクセスすれば必ず必要なデータがある、という状況を作ることができ、多様な問題解決を行いやすくなります。このような使い方ができる BI ツールは、他には見当たりませんでした」。

JavaScript API の実装

Tableau には JavaScript API が装備されています。これを利用することで CCI のように、独自の Web アプリケーションに Tableau ダッシュボードを埋め込む、といった使い方が可能になります。また lake.bi のログイン画面には Tableau のログインフォームが流用されていますが、このように部品としての活用が容易な点も高く評価されています。

RLS 機能の実装

RLS（Row Level Security：行レベルセキュリティ）とは、その名の通り行単位でユーザーアクセスを制御する機能です。これにより、ユーザーの権限に応じて表示可能なデータを制御できるようになります。多様なユーザーに対するデータレイクとして使うには、このような制御機能が不可欠です。「この機能を装備した BI ツールも他にはありませんでした」（浦氏）

Tableau 導入効果

Excel から Tableau への移行によって、以下のメリットがもたらされています。

レポート作成時間の大幅削減

前述のように CCI では、lake.bi だけで毎年 7 万本近くのレポートが作成されています。もしこれを Excel で作成し、1 本辺り 30 分～1 時間の時間を費やしていたとすれば、年間の作業時間は 3 万 5,000 時間～7 万時間に上ることになります。しかし実際には Tableau を活用することで、その時間は不要になっています。ユーザーが lake.bi にアクセスした時点で最新のレポートが自動作成され、わずか 3 秒程度で入手できるようになっています。

新たな知見の獲得

Tableau のダッシュボードでは、定型的なレポートだけではなく、分析軸の変更や対象データのフィルタリングを行うことで、アドホックな分析も可能です。また CCI の Tableau Server には多様なデータが格納されているため、これまで単体のデータでは見えてこなかった傾向を把握することも容易です。なお lake.bi では、多様な広告業種の実績データを用いることで、未来の実績予測・シミュレーションを行うことも可能。未来のビジネスに貢献するデータ活用に挑戦したいと考えています。

ビジネスの拡大

Tableau Server をデータレイクとして活用することで、広告配信プラットフォーマー毎のデータを、横並びで見ることも可能になりました。その結果、広告同士の効果の比較が容易になり、より適切な意思決定を下しやすくなっています。これは顧客からの信頼や顧客満足度に直結しており、最近では出稿予算が増額されるケースも増えていると言います。

今後の展開について

今後はレポート業務の効率化にとどまらず、広告業務全体の高度化にも取り組んでいきたいと浦氏は語ります。

「現在でもまだ社内でプランニングを行う際に、大まかな数字だけを利用し、勘で仕事をしている部分がかなり残っています。このような業務で Tableau を利用すれば、より精度の高いプランを立案できるようになるはずです。Tableau と AI をつなぐことで、次の提案に活かせるサービスの実現も可能になるでしょう。これからも Tableau を積極的に活用しながら、お客様のビジネスを支援するサービスを実現していきたいと考えています」。

無料トライアル版をダウンロードして、ぜひ Tableau をお試しください。

http://www.tableau.com/ja-jp/trial

Tableau Software (Email: japan@tableau.com)

© Copyright Tableau Software, 2020. All rights reserved. Tableau Software, the Tableau Software logo, and Visual Analysis for Databases are either registered trademarks or trademarks of Tableau Software, Incorporated. Other company or product names may be the trademarks of their respective owners.